

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 23 年 5 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100027		
法人名	医療法人社団 愛優会		
事業所名	グループホーム水戸	ユニット名	2階
所在地	〒 310-0852 茨城県水戸市笠原町1614-9		
自己評価作成日	平成23 年 5 月 28日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>GHという家庭の延長で、他人の集まりでも大家族のように生活して頂いています。「歩かないと歩けなくなる」をモットーに自立を支援。入居者の方が、いつまでも元気で自分の意思で動け、やりたいことが出来る様に、介護予防・健康維持できるように支援している。高齢者や認知症に良い情報を積極的に取り入れ実践しています。生活の中でウォーキングや庭の草木で自然に触れ、五感を刺激し四季を感じ、色々な手段で感情に働き掛け、笑顔で元気に生活してい頂けるよう心掛けています。ウォーキングや買い物等で地域の方と自然に関わる機会を大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、スタッフと共に考えた施設理念を掲示し、理念をふまえた実践が出来るようにしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、日々のウォーキングやショッピングセンターへの買い物等で地域の方と挨拶や景色・天候等の自然な会話ができるように心掛けている。県庁や開発公社ビルもウォーキング途中に立ち寄る機会を多くしている。ゴミ収集所の清掃順番も参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りに認知症や介護情報を豆知識として掲載し、家族や見学の方に配布や回覧版で閲覧して頂けるようにしている。職員は救命講習受講を必須とし、施設内にAEDを設置し看板にも設置をアピールし、緊急時に地域に貢献できるようにしている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催。施設の雰囲気や入居者の表情を直接見て理解して頂きたいので、毎回施設内で開催。会議用のスペースの関係で、少人数で開催。市の職員やご家族、ご近所の方にも参加をお願いし、施設内の現状報告や取り組み状況を報告し、アドバイス頂いている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議へ参加頂く他、書類提出等は市役所へ訪問し、相談できる機会を多くしている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について施設内の勉強会を開催し、身体拘束廃止については、玄関に掲示している。身体拘束せずにケア出来るよう取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催等、外部での研修に参加し、施設内で伝達講習を行い虐待について理解を深めるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加や資料から自主的に理解を深めるようにし、必要時ご家族や他の事業所の方に相談している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書、重要事項説明書等を説明し、同意のもと締結している。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議で入居者や、ご家族等の意見を議事録に記録し、法人のホームページで公開している。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議を毎月開催し、本部からの情報伝達すると共に、スタッフからの意見や要望を聞いている。理事長、本部へ毎月の報告会や会議の際に職員の意見を伝えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの介護経験にとらわれず、向上心や能力を認めるようにしている。スタッフ間の勤務が乱れない範囲で勤務サイクルや休日の希望を聞きシフト作成している。会議での意見交換やスタッフからの情報を基に可能な範囲で整備するよう努めている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供や、レベルにあった研修参加を積極的に勧めている。外部研修で刺激を受けモチベーションの向上へ繋げ、職員が担当制で勉強会を開催し、勉強するきっかけづくりをしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の協議会主催の研修会への参加や、法人内の会議で他の事業所との交流や、情報交換をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、ご本人に見学頂いたりご自宅へ伺い、話をしながら面識を持ち、入居後の不安を少なくするよう心掛けている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、入居に際するご家族の心境を理解するよう努め、不安や要望等を可能な範囲で実践するよう心掛けている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居問い合わせや、施設見学の際にご本人の様子やご家族の状況を把握し、入居の希望時期を確認し入居日を決定している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も共に生活する同居人や、家族の一員のように自然に関わり入居者とのよい関係を築いている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる頻度は、ご家族により様々で、安心して頂く事と、家族関係を修復し良い家族関係が保たれ面会に多く来て頂ける様、心掛けている。毎月職員が生活状況（主に良い変化）を直筆で手紙を書き、写真とホーム便りを同封し郵送している。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より交流のあった方の面会を積極的に受け入れ、居室で過ごす他、時には外出もして頂けるよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間でトラブルの無いよう、性格や行動等を把握し、職員の声掛けの順番やタイミングを考えたり、ホールでの席の配置を考え支援している。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の様子を伺ったり、お手紙を書いたり、ご家族への精神的な支援が出来るように努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思を尊重し、生活サイクルを本人のペースに合わせ、徐々に集団での生活が送れるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族への思いを把握し、本人との会話やご家族と情報を共有しながら関わっている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員が日々、入居者の心身の状態を観察把握するように努め、個別的に適宜対応している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望は生活の中で適宜情報を得、ご家族からは、お手紙や面会の際にご意見を伺い毎月のスタッフ会議で話し合い実践するようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他、情報共有シートに記録し情報を共有し、スタッフ会議で話し合い活用するよう心掛けている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団生活を送りながらも、状況に応じて個別的に対応するよう心掛けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ウォーキングや買い物等で近隣の方や、保育園児との触れ合いの他、中学校のクラブ活動の見学や声援を送るなど楽しむ機会を多くしている。ウォーキングの際は県庁の展望台も利用している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は、入居時にご家族の希望で決定している。かかりつけ医のみや、症状により、かかりつけと連携体制としている診療所の医療を分けて利用される方等、希望に応じた対応をしている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の検温や身体状況の変化は主に介護職員が観察し、看護師も適宜観察を行い、職員間の連携で病院へ報告・受診している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は適宜病院へ訪問し、なじみのある顔を見せることで入居者様が不安なく入院生活が送れるよう支援し、病院職員とも情報交換するよう努めている。症状安定後は早期に退院できるよう、退院後の受け入れ態勢を整えている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態の変化に応じ、家族の意思を確認している。状況の変化時は適時医師の説明が受けられるようにしている。看取りを希望される場合は、本人にとって望ましいか医師やスタッフとも話し合い判断している。看取りに望ましい環境が提供できるようスタッフ間のみでなく、病院や訪問看護等による連携体制をとり対応するようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置し、職員全員が救命講習を受講し、毎年再講習し急変時に対応できるようにしている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は昼夜それぞれを想定し訓練実施している。消防署職員の方に立会をして頂き、アドバイスを頂いている。近隣の方にも訓練に参加して頂けるようお願いしている。東日本大震災の経験から災害時の備蓄品の見直し準備を進めている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、往来場シーが保てるよう、スタッフも言動に配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動を傾聴観察し、信頼関係を築き日常会話の中に色々な思いや希望を表現しやすいような環境作りを心掛けている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中でも個人のペースに合わせ、自由に生活出来る時間を持てるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じた理美容へ行きヘアスタイルを整えたり、衣類を一緒に買いに行き、好みのデザインでおしゃれを楽しめるように支援している。一緒に買い物へ参加出来ない方は、好みを確認して購入しおしゃれを楽しんで頂いている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けを一緒に行ったり、味付けをお願いしたり、配膳下前等、出来る事を一緒に行い、食事の時間を楽しく過ごせるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士のメニューを参考にし、栄養のバランスを考えながら、入居者の嗜好も取り入れたメニューになるよう職員が担当制で考えてる。水分は1500mlを目安に摂取して頂けるよう、種類や形態を工夫している。食事摂取量や栄養状態に応じ適宜栄養補助食品も利用し、栄養状態の管理をしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導や介助を行い、起床時や就寝時は嗽含を施行し口腔内清潔に努めている。適宜歯科衛生士による口腔ケアも実施している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、誘導しトイレでの排泄を心掛け、少々の失禁の方はオムツ（パンツタイプも）・パッドも使用せず対応している。また、失禁パンツとパットやパンツタイプを使い分け排泄の自立支援の他、オムツの不快感から解放するよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず自然排便を促せるよう、水分摂取や野菜ジュースで食物繊維を多く摂取し、ウォーキングを実施している。さらに適宜ブルーベリーを摂取し排便コントロールできるよう支援している。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望のある方は希望に応じて支援しているが、入居者間でトラブルの原因となる時は順番を決めて入浴して頂いている。入浴を楽しめるよう数種類の入浴剤を使用、暖簾や浴室に季節感のある風景写真を掲示し季節を楽しんだり、温泉気分になって入浴を楽しんで頂けるよう支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中身体を動かす事により、夜間の心地良い睡眠が出来るよう支援している。体調により昼間も居室で休息して頂くよう、観察し声掛けしている。気分が落ち着かない方にはアロマを使用したりハーブティを飲んで頂き、睡眠薬等に頼らず眠りにつけるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から開始時の説明の他、薬局薬剤師とも連携をとりながら作用・副作用を理解し服薬介助や、服薬後の観察を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや、やりたいという希望があれば可能な範囲で実現できるよう支援している。生活歴や特技等の情報から声掛けし、楽しく生き生きとして頂けるよう支援している。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、急な場合は職員で対応できる範囲で外出し、ご家族が面会の際は外出先の希望をお話し外出して頂き希望に添えるよう支援している。日常的には施設周辺は本人のペースに合わせ、ホームセンターや衣料店等に外出している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーで買い物の際、お財布を渡して会計をして頂いたり、イベント等の外出では各個人にお財布を持って頂き、お土産コーナーで商品を選び買い物を頂くようにしている。日常的に常に欲しいものがある方は、毎月のお小遣いの金額を決めて本人が計画的に欲しいものを揃えるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望があればご家族に負担がないように電話をしたり、かけて頂いたりしている。手紙のやり取りも支援している。文章が書ける方はご家族へ手紙や葉書を送る等支援している。
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、居間には季節感が分かるよう入居者と一緒に装飾をしている。温度や湿度もチェックし適度に調整している。共有空間ではウォーキング途中で摘んだ草花を飾り、会話が弾むようにしている。座席の配置も入居者が落ち着けるよう考慮している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では自由にテーブルで読書をしたり、テレビを観たり、並んでソファーに座り楽しく団欒の時間を過ごしたり、思い思いの時間が過ごせるよう配慮している。
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、本人が愛用の家具や、大切なものを配置して頂けるよう相談し、入居後も本人の希望する物を持ち込みして頂けるよう相談し、落ち着いて生活出来るようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「歩かないと歩けなくなる」をモットーに自立支援をしている。生活環境を活かして出来る事は可能な限り行って頂く。焦らせることなく、見守りながら不安なく自立への意欲を持って頂き、達成した時は喜びを共感している。

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない